

Child 子どもを守る Saving

④ 菊川怜さんと
中村譲さんの対談



菊川怜
(きくかわ・れい)

1978年2月28日埼玉県生まれ。東レキヤンペーンガールや女性ファッション誌『Ray』の専属モデルとして活躍。99年には「危険な関係(フジテレビ)」で女優デビュー。11年8月、暮らしに生きた数学の知恵を、Q&A形式で解説した「菊川怜の数学生活のススメ」を日本文芸社から出版。

震災直後から被災地の教育復興のために様々な活動をされています。全国の組合員から「被災地の学校の子どもや教職員を助けたい」という声が続々と届きました。そのほとんどは「子どもたちを一日も早く日常に戻してあげたい」という思いをつづったものでした。こうしたお互いの思いをひとつづつ形にしてボランティア活動につなげています。この夏は全国から約350人が被災地に入りました。

確かに、学校現場のことを一番わかっているのは教職員のみなさんです。だから協力していくスタイルでたくさんの方が復興支援に関われるといいですね。「餅は餅屋」と言いますから、それぞれの特性を活かして、できることが可能になります。教職員が学校現場に入ると、これは非常に効果的なボランティア活動といえるのではないでしょうか。

確かに、学校現場のことを一番わかっているのは教職員のみなさんです。しかし、このような話題性のある学校はメディアに取り上げられやすいですが、多くの被災した学校でまだ十分な環境が整備されていないと聞きます。

中村 被災地では、ほとんどの学校で新学期のスタートが遅れたため、学習時間が不足しています。そこで、学校で個別指導を行つたり、避難所の一角に学習スペースを設け、勉強会を開いたりしました。夏ならではの活動としては、プール監視などもありました。

また、原発の影響で外で自由に遊べない福島県の子どもたち向けに、自然の豊かな場所に保護者とともに招待するバスツアーを行いました。久しぶりの外遊びということもあり、子どもたちは本当に楽しそうで、笑顔でした。この夏、数ヵ月遅れの卒業式を計画した学校がありました。宮城県南三陸町にある戸倉中学校もそのひとつです。この学校の校舎は津波被害で使用できなくなり、現在も別な校舎で授業を行っています。しかし、卒業式は思い出の校舎で行いたいという卒業生の思いが強かつたのです。そこで私たちが校門の前で写真を撮るものだから」と。このエピソードには、教職員が学校にボランティアに入ることの意義が現れているように思います。また、そんなボランティアのみなさんの活動に影響を受け、「自分たちも大きくなつたら災害で困っている人たちを助けたい」と子どもたちが言ってくれたと聞き、すごく嬉しく思いました。

当初は卒業式を行うフロアのみの清掃予定でしたが、ボランティアに入った教職員たちは自主的に校門の草刈りを始めたのです。「卒業式には、必ず校門の前で写真を撮るものだから」と。このエピソードには、教職員が学校にボランティアに入ることの意義が現れているように思います。また、そんなボランティアのみなさんの活動に影響を受け、「自分たちも大きくなつたら災害で困っている人たちを助けたい」と子どもたちが言ってくれたと聞き、すごく嬉しく思いました。

専門家の間では、「キーパーソンは中止める」ことができるようにならなければなりません。ですから災害時に、「自分の命は自分で守り、被害を最小限に食いつかりと問題意識を持つてとりくん

企画・構成
「子ども応援便り」編集長

高比良美穂



福島県内の避難所や、仮設住宅の子どもたちとその保護者107人を招待し、山形県蔵王温泉への自然体験バスツアーを開催。



校舎2階まで浸水した名足小学校にて、泥だらけの教室を掃除し、手付かずだった倉庫の備品、水に濡れた文書の整理を行う。



日常が戻るその日まで 支援を続け繋いでいく

「子どもを守る」シリーズ④

「子どもを守る」シリーズ4回目は、「被災地の子どもたちに日常を」をテーマに、独自のボランティア活動を展開する日本教職員組合の中村譲委員長と、女優の菊川怜さんの対談です。

対談では、ボランティアを行う教職員の熱い想いを中村委員長が代弁し、菊川さんとともに、今後どのような支援活動を行っていかよいか、真剣に語り合いました。

菊川 確かに、学校現場のことを一番わかっているのは教職員のみなさんです。だから協力していくスタイルでたくさんの方が復興支援に関われるといいですね。教職員が学校現場に入ると、これは非常に効果的なボランティア活動といえるのではないかでしょうか。

中村 支援の内容は多種多様です。被災地では、ほとんどの学校で新学期のスタートが遅れたため、学習時間が不足しています。そこで、学校で個別指導を行つたり、避難所の一角に学習スペースを設け、勉強会を開いたりしました。夏ならではの活動としては、プール監視などもありました。

また、原発の影響で外で自由に遊べない福島県の子どもたち向けに、自然の豊かな場所に保護者とともに招待するバスツアーを行いました。久しぶりの外遊びということもあり、子どもたちは本当に楽しそうで、笑顔でした。この夏、数ヵ月遅れの卒業式を計画した学校がありました。宮城県南三陸町にある戸倉中学校もそのひとつです。この学校の校舎は津波被害で使用できなくなり、現在も別な校舎で授業を行っています。しかし、卒業式は思い出の校舎で行いたいという卒業生の思いが強かつたのです。そこで私たちが校門の前で写真を撮るものだから」と。このエピソードには、教職員が学校にボランティアに入ることの意義が現れているように思います。また、そんなボランティアのみなさんの活動に影響を受け、「自分たちも大きくなつたら災害で困っている人たちを助けたい」と子どもたちが言ってくれたと聞き、すごく嬉しく思いました。

菊川 卒業式は一生の思い出ですかね。行き届いた支援の例だと思います。



被災した宮城県南三陸町の名足小学校の図書室を清掃。教職員同士なので、「捨てていい物」「捨ててはいけない物」の判断ができる。



宮城県南三陸町の戸倉中学校にて、「思い出の校舎で卒業式を」との願いを叶えるため、校舎の清掃を行った。7月31日、5ヵ月遅れの卒業式が行われた。



福島市あづま総合運動公園内の体育館。学習スペースを設け、子どもたちのニーズに合わせて学習支援を行った。